

次世代トップコーチ育成プログラム
実践型学習プログラム 実施報告

2023年5月

アスリート委員会

背景

- 東京大会に向けてギザビエコーチによる強化活動が進められ、一定の成果はあったものの、まだまだ世界との差は大きいことがわかる。日本のメダル獲得のためには、**継続的かつ一貫した強化が不可欠**。
- しかし、強化予算のほとんどは国からの強化費に頼らざるを得ない状況。東京大会後の強化費削減が予想される中、海外からコーチを招聘・雇用し続けることや後任候補者の問題など解決すべき課題がある。
- これまでの強化方針を継承し、一貫したアスリートの発掘・育成・強化を図るため、**競技団体主導で次世代のナショナルコーチ候補者の発掘および育成に取り組む必要**がある。
- 東京大会まで強化してきたアスリートをコーチとして育成することを提案。



東京大会のレガシー継承

次世代コーチ育成プログラム概要

- 【目的】 ローイングにおける持続可能な競技力向上を図るため、国際レベルを経験したアスリートをトップコーチや強化の現場をマネジメントする人材に育成するための支援を行います。
- 【対象】 2021年ナショナルコーチ体験プログラム参加者4名 ※必要に応じて追加募集を行う予定
- 【期間】 2022年4月～2024年12月
- 【事業内容】 上記の課題や目的を踏まえ、以下の取組を通じて支援を行っていきます。

（１）将来的に指導的立場を目指す人材の発掘

- ・協会が主催する強化合宿において、見習いコーチとして参加できるプログラムを実施する。
- ・各カテゴリーを含むナショナルコーチの要件と選定基準の整理。
- ・競技を引退した選手を含む日本代表選手のキャリア等に関する相談への対応。

（２）キャリアプランの策定支援

- ・目標設定や学びのプランなど、今後のキャリアパスのイメージが持てるようプラン策定の支援を行う。

（３）学びの機会提供

- ・協会が主催する強化合宿や活動において、実践の場を提供。
- ・JOC研修制度の活用など、個人のキャリアプランに対応した学習機会やプログラムの企画、支援。
- ・国際的なネットワークづくりのための支援。
- ・協会が主催する体験会などにおいて、現役選手等が指導する機会を創出。

取組のスキーム

発掘

- ナショナルコーチ体験プログラム参加者の公募
- 選考会議により4名を発掘

検証

- ナショナルコーチ体験プログラム、実践型学習プログラムの実施
- 参加者本人による適正の見極め、意思確認

育成

- 次世代コーチ育成プログラムの実施
- 毎月第2土曜日に勉強会を開催

実践型学習プログラム概要

他競技のナショナルコーチの指導現場を観察するとともに、ナショナルコーチとの意見交換を通してトップレベルのコーチング哲学や指導への心構え・キャリアパスについて学ぶ「実践型学習プログラム」を実施しました。

- 【期間】 2023年5月8日（月）
- 【場所】 ナショナルトレーニングセンター ウェスト
- 【参加者】 上田 佳奈子、上野 翔子、小林 雅人（敬称略）
- 【協力】 公益財団法人日本バスケットボール協会様
- 【内容】
 1. 指導現場の観察
 2. 意見交換
 3. 勉強会にて振り返り・学習内容の共有
 4. レポートの提出

※今回のプログラムの実施にあたり、参加者の追加募集を行い、1名の参加を決定しました。
JOCエリートアカデミーコーチの上野さん

他競技のナショナルコーチの紹介

今回のプログラム企画にあたり、公益財団法人日本バスケットボール協会（JBA）女子アンダーカテゴリー日本代表チーム専任コーチを務める藪内夏美氏の指導現場を観察させていただきました。

<プロフィール>

氏名： 藪内 夏美（やぶうち なつみ）

生年月日： 1977年 7 月21日

出身地： 大阪府堺市

保有ライセンス： JBA 公認 S 級コーチ

主な競技歴： 1998～2006年：Wリーグ 日本航空 JAL ラビッツ所属
2004年：女子日本代表 アテネオリンピック出場（10位）

日本代表指導歴： 2018年：第18回アジア競技大会(ジャカルタ)女子日本代表チームヘッドコーチ（第3位）
2020年：2020年度女子日本代表チーム アシスタントコーチ
2021年～現在：女子アンダーカテゴリー日本代表チーム専任コーチ

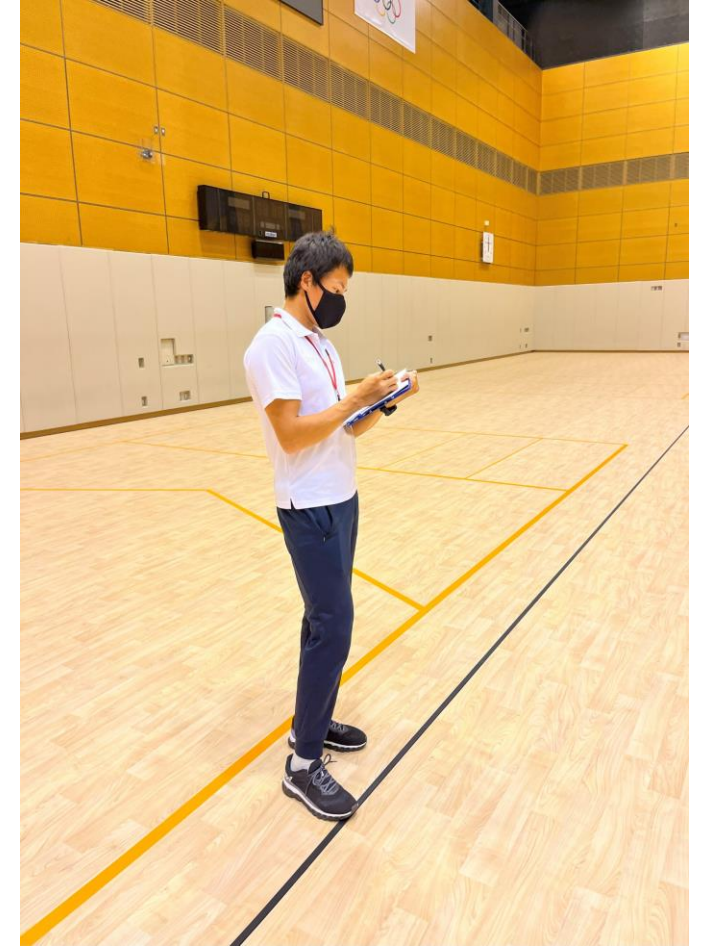


藪内コーチの指導現場を観察

JBA女子U16日本代表合宿初日に訪問。活発な雰囲気とともに、淀みなく進められる練習、藪内コーチをはじめとするスタッフの言動を観察しながら、様々な気づきを得た。

合宿は、全国から選抜された選手14名、スタッフは、チームリーダー、ヘッドコーチ、アシスタントコーチ、トレーナー、テクニカルスタッフ、マネージャー12名の体制で行われた。

観察の様子



藪内コーチとの意見交換

練習後、藪内コーチとの意見交換会を実施。参加者は練習の観察で疑問に思ったことや藪内コーチの話を聞きながら気になったことについて積極的に質問しました。藪内コーチからは、非常に丁寧でわかりやすい回答をもらい、他競技からも真似できる点や新しい考え方を学びました。

<主な質問内容>

- ・コーチになろうと思ったきっかけ
- ・これまでの経験の中で、現在のコーチングスタイルに繋がった出来事
- ・コーチ・スタッフ間の情報共有や連携について
- ・ジュニア選手へのコーチングで気を付けていること
- ・選手選考について
- ・メンターや相談相手の存在、今後の目標やキャリアのイメージ



参加者からのコメント1

◆プログラムに参加した感想

・今回のプログラムに参加し、他競技の日本代表チームのよいところをもっとローイングにも取り入れたいと思った。すぐにでも取り入れたいのが、スタッフから明るく元気に、そして選手が挑戦しやすい雰囲気とムードをつくること。スタッフ間でのコミュニケーションをもっと活発にし、選手だけではなく、スタッフも含めて全員が同じ方向を向くチームをつくりたい。

◆指導現場の観察での気づき

・トレーニングはヘッドコーチがメニューを説明、トレーニング中は全体を見渡しながら細かく的確な指導を行う。アシスタントコーチはパスや、気になるところへの指導や選手を鼓舞している。トレーニングメニューの狙いをコーチ間でしっかりと共有されていてヘッドコーチがやりたいバスケットをアシスタントコーチもしっかり認識しているように感じた。

・驚くほどスムーズに練習が進んでいた。選手達の理解力の高さもあるとは思いますが、それ以上にコーチ達の練習・技術に対しての理解が深いのだと感じた。

参加者からのコメント2

◆意見交換での学び

- ・物事を言葉で伝える際、これ以上細かく説明できないほど「言語化」することによって相手にも自分にも深い理解を促すことが出来ると自分は解釈した。相手に理解してもらうのは、これまでも分かってはいたつもりではあるが、細かく言語化することにより説明する側の自分も、より理解が深まるというのは凄く感動を覚えた。
- ・意見交換の際も、質問を繰り返し、どんどん深掘りして行ってこれ以上言葉を噛み砕けないというような状況になるまで言語化を促されていた。うまく言語化されることにより、選手自身が問題に気づくことができるとおっしゃっており、普段から選手に言語技術力をつける練習（いつ、どこで、なぜなどを言葉にさせる）もされている。

◆振り返り、学習内容の共有でのコメントについて

- ・映像を使った指導を実践してみようと思った。
- ・チームミーティング等での明るい雰囲気づくりは、すぐにでも実践したいと思った。

プログラムにおける成果と課題

成果

- 新たにコーチを志す現役選手1名を発掘した。
- 他競技のナショナルコーチの指導現場を観察し、新しい指導方法や知見を得ることができた。
- 競技を超えたコーチ同士のネットワークづくりに寄与した。
- コーチ育成における競技団体間の横連携事例を作ることができた。

課題

- 次世代を担うトップコーチの育成については、スポーツ界全体で取り組むことが効果的かつ効率的と考えられる。今後、競技団体間の情報連携により成果の共有が期待される。

謝辞

今回のプログラムの実施にあたりまして、公益財団法人日本バスケットボール協会様には多大なるご理解とご協力を賜りました。指導現場の観察や意見交換会にご協力いただきました藪内夏美様、プログラムの受け入れを支援してくださいました強化育成Gr・指導者養成Grゼネラルマネージャー井上様をはじめ、女子U16日本代表の選手・スタッフの皆様に心より御礼申し上げます。

